

# 社会福祉法人みちのく福祉会

## 法人理念

「寄り添い、共にあり続けること」

## 平成30年度経営方針

「大切にする」

( \* 辞書で調べると「もっとも必要であり、重んじられるさま」「丁寧に扱って、大事にするさま」と書かれている。)

### 顧客を大切にする

( \* あえて顧客と表現した。顧客とはお客様。自組織のサービス、商品を購入したり利用して下さる方{個人・法人}のこと。また今後利用されるかもしれない方までも含まれる )

我々は無意識のうちに「効率、合理化、便利、マニュアル、、、」などの言葉に慣れ親しみ過ぎていたのかもしれない。いま挙げた言葉はすべて何も悪くない。後に述べるが組織で動く以上絶対必要なものであると認識しているが、いまいちど立ち止まり胸に手を当てなければならぬと感じる。

顧客を大切に思うこと。心あるサービスと、手順通りだけのサービス。その行動は、真に誰のため、何のためであるかを自覚しなければならない。

「寄り添う」とは心が動くことだと、忘れてはならない。

### 職員を大切にする

福祉サービスを供給するのが我々の仕事ならば、それは現場の職員のみなさんからしか供給されない。保育・障害支援・看護・調理・施設管理・財務・労務・企画など法人内には様々な職種があるが、そのすべては顧客のためにある。であるなら、職員が働いてよかった、働きたいと思えるような環境づくりが必要だと考えている。

「ワークライフバランス」との言葉が聞こえて久しいが、バランスを自身が取ることには難しい。現場での空気、世代を超えた働くことへの価値観のズレ、自身の仕事への責任感。健康で心豊かでなければ福祉職は勤まらない。職員の身体と心の健康増進のために、私を始

め各施設長、幹部は経営のハンドルをしっかりと握らなければならない。

また長く勤めてもらうということは、人生のかなりな部分を職場に捧げてもらうことになる。仕事上での「キャリアビジョン」と人生上での「ライフビジョン」を合致させていく努力が必要になる。

## ルール・プロセスを大切にす

ISOの要求事項と、日々の業務の目指すところは同じだと認識する。「心ある行動」が仕事、職務であることに違いは無いが「秩序」を守るため、手順が必要になってくる。

手順通りだけではない。しかし「おもいアリ秩序ナシ」ではいけない。

定款・各種規程の遵守はもちろん、日々の支援・保育・業務の中でのサービス・業務提供の過程が重視される。

日々の活動の中で、改定しなければならないルールは改定していく。

ルールの中心にあるのは「顧客・職員」でなければならない。

## 地域を大切にす

社会福祉法人は自身の経営品質向上のためにも、地域に開かれ、地域の方々を招き入れながら情報を広く公開し、発信することが求められている。

法人施設の中だけには、地域の事情、寄せられる期待、法人が自覚すべき責任は見えこない。

地域社会の一員として、自らが交流を図り地域との相互理解のもと、「協力協同」「共有」を図っていかなければならない。

現在住むこの街を愛し、感謝し、次世代に胸を張って「より良い地域」を残していくこと。

社会福祉法人 みちのく福祉会  
理事長 内田大輔

# 具体的計画

## 継続するもの

アクションプラン 2020 の活用  
「できている」「できていない」の確認  
求められている「取組み」の更なる向上

「定例会議」の質の向上  
マネジメントレビュー、課長主任会議、虐待防止委員会、職員会議等

職員の「健康管理」から「健康推進」へ

経営の内部統制強化

## 新しく取り組むもの

職員への教育機会の大幅な増加による質の向上  
障害者支援施設向けオンライン職員研修「サポーターズ・カレッジ」の活用  
(別紙・資料あり)

ICT活用による業務軽減

あおりしあわせネットワークの参画  
拠点参加法人として活動